

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第14号—



尾根平場を巡る堀（外側から内側へ作り替えられていました）

馬淵川北岸の拠点集落 はやしのまえ ～林ノ前遺跡～

林ノ前遺跡は、八戸市北西部の尻内町熊ノ沢地区にある10世紀中葉～11世紀前半の集落跡です。浅水川左岸の標高20～40mの舌状台地に位置し、遺跡の北側には沢が入り込み、南側には眼下に水田地帯が広がっています。平成13年から八戸市教育委員会が発掘調査を行ってきており、平成12～15年には県道改修事業に伴い青森県埋蔵文化財調査センターによる

発掘調査も行われました。

遺跡の特徴は、台地の高いところを堀が巡り、その中の狭い平坦面と、外側の北に面した斜面に多数の竪穴住居や円形の土坑がつくられていることです。遺構、遺物のなかには、鍛冶関連遺構や銅、銀、金が付着した^{るつぼ}埴塼が出土しており、鉄や非鉄金属の製作が行われていたことがわかりました。（次頁につづく）



またウマ・ウシの骨がたくさんみつかっていて、幼齢の個体が比較的目立つことから、家畜として飼われていたことが明らかです。さらにまとまった数の人骨も出土しており、遺跡の性格を考える上で注目されてきました。

平成 22 年度の発掘調査は 6 月 10 日～ 9 月



林ノ前遺跡の全体図

22 日にかけて、遺跡東端に近い場所で行いました。調査の結果、北斜面と尾根平場の約 600 m²の範囲から、堀跡 2 条、溝 1 条、竪穴住居跡 27 棟、土坑 80 基などを検出しています。

堀跡 2 条は、平坦面から斜面に沿って並行して巡ります。深さ 1.1m 前後のものですが、最初の堀を内側へ作り替え、1.8m 前後の幅から 2.7m 程に広くしています。竪穴住居跡、土坑は平坦面から斜面にかけて何回も作り替えられ、廃棄するときは人為的に埋め戻されています。堀跡により壊されているものが多いのですが、堀跡より新しい時期の竪穴住居もあります。

竪穴住居は方形で、住居の南側や東側にカマドがつくられています。土坑の大半は円形で、直径 2m 前後から大きいものでは 4m 近いものまであります。

出土遺物は、縄文土器・石器・土師器・須恵器・鉄製品・石製品・獣骨で、鉄製品は、鉄鏃・刀子・錫杖状鉄製品などがあります。斜面地の土坑からは若いウシの頭部の骨が見つかりました。

青森県埋蔵文化財調査センターと八戸市教育委員会の調査を合わせた平成 22 年度までの遺構数は、竪穴住居跡(竪穴遺構含む)228 棟、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 713 基、堀跡 5 条、鍛冶関連遺構 9 基などにのびります。

今後、さらに東側の丘陵端部の調査を進め、堀跡の性格や、その内側と外側で場の利用の仕方に違いがあるのか、そして集落全体の性格や遺構変遷のあり方を検討していきたいと考えています。(宇部 則保)



土坑から出土したウシの歯



尾根平場の調査状況

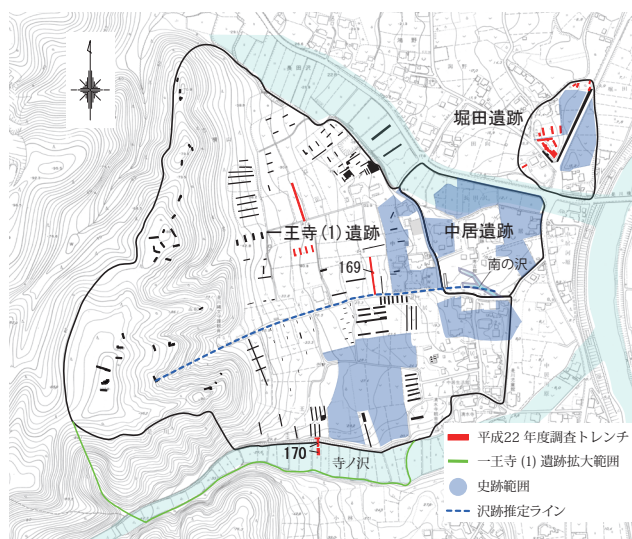
一王寺(1)遺跡・堀田遺跡～平成22年度の調査成果～

一王寺(1)遺跡

一王寺(1)遺跡は、新井田川の段丘左岸に位置する標高10～20mの台地と、標高70～100mの丘陵からなり、総面積は約32万6千㎡です。遺跡の現状は畑地・宅地・墓地と山林で、台地は東側に流れる新井田川に向かう緩やかな傾斜面となっています。一王寺(1)遺跡では、これまで13地点の範囲・内容の確認調査や墓地造成、是川縄文館建設に伴う発掘調査が行なわれています。

平成22年度は、平成21年度の調査成果を受け、遺跡を流れる水脈を確認するため調査を行いました。その結果、169トレンチで自然の沢地形が確認され、遺跡を横断し、中居遺跡に抜ける沢の存在を推定することができました。

また、平成19・20年度の調査で遺跡の南から縄文時代前・中期から後期の遺物の捨て場が見つっています。この捨て場のさらに南側を調査したところ、捨て場が寺ノ沢地区まで広がっていることがわかりました(170トレンチ)。



是川遺跡全体図

平成22年度の調査により、一王寺(1)遺跡はさらに南に広がっていることが確認されました。

堀田遺跡

堀田遺跡は、新井田川左岸の標高10～25mの低位段丘上に立地し、南から北へ向かう傾斜面となっています。遺跡の面積は約1万8千㎡です。現状は畑地・宅地で、遺跡中央を県道島守-八戸線が通っています。

これまで八戸市教育委員会により、昭和47年と昭和55年に発掘調査が行われています。

平成22年度の調査は、遺跡の範囲と内容を確認するために行いました。調査の結果、遺跡の中央から、縄文時代中期の終わり頃から後期の初め頃の土器を伴う、23基の土坑が検出されました。昭和55年に行われた調査でも土坑が見つかり、今年度の調査で検出した土坑と一連のものであったと考えられます。

(横山 寛剛)



一王寺(1)遺跡 寺ノ沢地区の調査風景



堀田遺跡 検出された土坑群

宗教施設か？掘立柱建物跡発見～八戸城跡～ はちのへじょう

八戸城跡は、八戸市内丸に位置する江戸時代の城跡を中心とする遺跡です。八戸城は、現在の三八城神社を中心とする本丸と、八戸市庁・^{おがみ}霽神社等が位置する二の丸から構成されています。寛文4年(1664)に八戸藩二万石が成立した際に、藩主の居城・藩庁と定められ、明治4年(1871)の廃藩置県によって廃城となり、本丸内の屋敷は取り壊されました。

平成22年度は、アパート建築に先立って二ノ丸内の2ヶ所を調査し、掘立柱建物跡や江戸時代の陶磁器が出土しました。

霽神社東側に隣接する地点では、3棟の掘立柱建物跡が見つかりました。3棟の間取りはよく似ており、一軒の建物の建て替えと考えられます。建物の間取りは、仏堂等の宗教施設にみられるもので、北側に出入口がつくられていたようです。

建物の向きは、霽神社の前を通る江戸時代の道とずれていました。また、柱穴から、八戸城より古い時期の陶器片が出土しているため、八戸城がつくられる前の建物である可能性が考えられます。

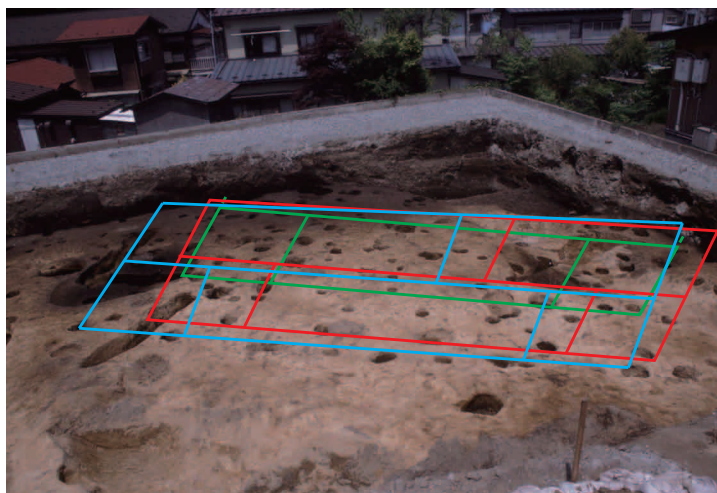
建物の北側では、幅5m以上の大型の土坑から、江戸時代の陶磁器が多数出土しました。18～19世紀代の肥前産磁器が多くみられ、瀬戸・美濃・唐津・京

信楽・小久慈産の陶器も含まれています。

出土品のうち京信楽産陶器の「蘭引」^{らんびき}中段は、水やアルコール等を蒸留^{じょうりゅう}する器具の一部です。伝世品が知られていますが、発掘調査での出土は珍しいものです。蘭引以外にも、花生^{はな い}けのような陶器や、組物の皿がみられるため、周辺の上級武士宅等で使われていた陶磁器が捨てられたゴミ穴と考えられます。

今回の調査は、八戸城二ノ丸では初めての本格的な発掘調査となりました。これから絵図等もあわせて調査を進め、これまでほとんどわかっていなかった八戸城二ノ丸の様子を明らかにしていきたいと思います。(船場 昌子)

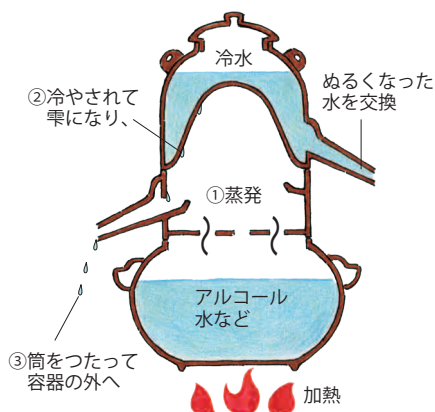
※八戸城二の丸：法霊社（霽神社）・八幡宮・豊山寺といった社寺のほか、藩主一族・重臣の屋敷地でした。



掘立柱建物跡 赤・青・緑の線がそれぞれ建物を表しています。
3棟の建物がほぼ同じ向きで建て替えられていました。



蘭引（らんびき） 3つの部分からなる蘭引の中央部分が出土しました。



蘭引を使った蒸留方法



蘭引全体図

八戸市埋蔵文化財センター「是川縄文館」が開館します！！

平成 23 年 7 月 10 日 (日) 12 時に、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館が開館します。

是川縄文館は、是川遺跡や風張 1 遺跡などを通じて、東北地方の優れた縄文文化を発信するための施設です。

是川縄文館は、大きく分けて二つの機能があります。一つ目は、遺跡や遺物といった埋蔵文化財の調査・研究・保存・管理機能です。

市内の遺跡が開発によって壊される場合、発掘調査を行い、記録として報告書にまとめます。また、大学など外部機関と共同で研究を進め、その成果を報告会などで公表していきます。

もう一つは、展示・体験学習といった埋蔵文化財の活用機能です。八戸市博物館で展示されていた風張 1 遺跡の国宝・重要文化財のほか、縄文学習館で展示されていた是川遺跡の重要文化財、さらに今年重要文化財に追加指定されることが決まった平成の発掘調査による出土品を中心に展示されます。

常設展示室は、縄文の文様を光で表現した「縄文への道」から始まり、縄文時代のある秋の 1 日の暮らしを紹介する「暮らしシアター」へと続いています。

遺物展示は、感じる（右脳）、考える（左脳）という二つのテーマで作られています。感じる展示「縄文の美」では、是川遺跡や風張 1 遺跡の完成度が高い出土品を美術館のように 1 点ずつじっくりと鑑賞できるようにしました。考える展示「縄文の謎」では、是川中居遺跡の低湿地調査から明らかとなった様々な発掘成果を、展示室の中から自分で探すことができます。

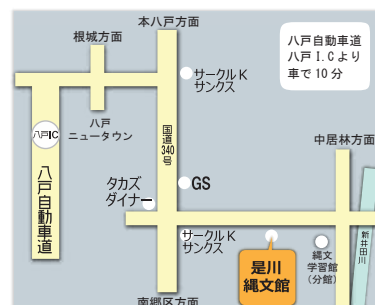
体験学習は、土器・土偶作り、火起こし、縄文の布作りなど、これまで縄文学習館で行っていた縄文を体験するメニューがそのままできます。

講演会などのイベントもたくさん予定されていますので、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館へ、是非お越しください。

(小久保 拓也)

ご利用案内

開館時間	9:00~17:00 (入館は 16:30 まで) ※開館日 7 月 10 日 (日) のみ 12 時開館です。
入館料金	一般 250 円 大・高 150 円 小・中 50 円 ※特別展は料金が変わります。 ※市内の小・中学生は無料。市内在住の障がい者、65 歳以上の方は半額です。20 名以上は団体料金でご利用いただけます。詳しくはお問い合わせ下さい。
休 館 日	月曜日 (第一月曜日・祝日の時は開館) ・祝日の翌日 (土・日曜日の時は開館) 年末年始 (12/27 ~ 1/4)



2011-2012 イベントスケジュール

※予定が変更になる場合があります

7月	企画展 「八戸の埋蔵文化財」 7/10~9/25	7/17 開館記念講演会 7/30 企画展考古学講座 1	夏休み縄文体験コーナー 7/23-8/21の土日に開催	日曜日 縄文体験 コーナー 7/10,17 8/25 10/30
8月		8/6 企画展考古学講座 2 8/20 企画展考古学講座 3	8/27これかわ縄文まつり	
9月			縄文の布を 編む講座	縄文土偶作り教室
10月	特別展「縄文至宝展」 10月中旬~11月中旬	10/23 特別展考古学講座 1 10/29 特別展考古学講座 2	縄文土器 作り講座	トチの実を食べる教室
11月	遺跡調査報告会	11/5 特別展考古学講座 3		ドングリを食べる教室
12月		12/4 考古学講座 12/17 考古学講座		縄文土器の拓本教室
1月		1/14 考古学講座		縄文の布を編む教室
2月		2/11 考古学講座	ボランティア 養成講座	縄文土器作り教室
3月				縄文土器作り教室

是川遺跡出土品が重要文化財に追加指定！！

平成 23 年 3 月 18 日、国の文化審議会から文部科学大臣への答申により、是川遺跡出土品 330 点が重要文化財に追加指定されることが決まりました。

追加指定される出土品は、平成 5 年・平成 11 ～ 16 年の発掘調査で出土したもので、詳しい内訳は下記のとおりです。

- 土器・土製品 … 109 点
- 木器・木製品 … 72 点
- 漆製品 … 80 点
- 石器・石製品 … 61 点
- 骨角製品 … 8 点

昭和 37 年に指定されている重要文化財 633 点とあわせると、その数は 963 点にのびます。

是川遺跡では、普通の遺跡では腐って残らない漆製品、木製品が豊富に出土します。追加指定される出土品は、その中でも形や装飾、文様の全体像がうかがえる残りの良い優品です。

きれいな装飾と文様がある土器や遮光器土偶をはじめ、石斧柄や掘り棒、骨角製品など様々な種類の道具のほか、全国でも出土例が少ないやす軸柄の完形品や樹皮製容器などがあります。縄文時代晩期における人々の技術力の高さや、豊かな木の文化を伝える貴重な資料であるといえます。

今回追加指定が決まった出土品は、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館の常設展示室にて公開するとともに、特別収蔵庫において保管する予定です。

(市川 健夫)



是川中居遺跡出土品 土器



是川中居遺跡出土品 木製品



是川中居遺跡出土品 漆塗り容器

「青森県是川遺跡出土品」追加指定の理由

①漆製品は遺存状態が良好なもの多数を含み、容器・狩猟具・装身具など多種多様であり、黒漆の上に赤漆を重ね塗りする技術は、その水準も極めて高い。

②木製品には、数本が束ねられた状態で出土したやすの軸柄や、石斧柄などがあり、狩猟や伐採といった生業活動の復元、それらの形態的特徴の研究、さらに樹種同定の結果などからも縄文時代の樹木利用の実態を知るための貴重な資料とされている。

③わが国を代表する縄文時代晩期の集落遺跡出土品として、生業や漆工芸技術、精神活動を復元するうえで貴重な一括である。

(文化庁発表資料より抜粋)



平成 22 年度八戸市遺跡調査報告会

平成 22 年 11 月 13 日 (土)、是川縄文館開館前のイベントとして、是川縄文館において平成 22 年度八戸市遺跡調査報告会を開催しました。この報告会は、八戸市内の主な発掘調査成果報告と出土遺物の展示を行なうもので、今回は過去最多の約 140 名の参加があり、大盛況となりました。

縄文時代・平安時代・江戸時代の計 5 遺跡について報告が行なわれました。縄文時代では土器捨て場の広がり^{かんごう}が確認された一王寺 (1) 遺跡、貯蔵穴とみられる土坑が多数みつかった堀田遺跡、平安時代では集落が広がる丘陵の平場を巡る堀跡 (環濠) が検出された林ノ前遺跡、江戸時代では掘立柱建物跡がみつかった八戸城跡、墓が多数みつかった市子林遺跡です。これらの調査成果はスライド写真を交えながら説明され、大勢の方が興味深い様子で聞かれていました。

また、報告会の終了後、館内の見学会が催され、多くの方が参加されました。(杉山 陽亮)



出土品展示会場



青森県埋蔵文化財調査センターの中村哲也さんによる「市子林遺跡」の報告

一年間を振り返って

気がつけば一年がすぎさっていました。この間、是川縄文館の展示工事や、発掘調査などの仕事に携わることができ、様々な経験をさせて頂きました。これもひとえに、上司・先輩のみなさまに支えられ、あたたかいご指導があったからこそと実感しています。

本年 7 月には八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館がいよいよ開館します。八戸市民のみなさまや市外から訪れる方々に、是川遺跡をはじめ、八戸市の埋蔵文化財の素晴らしさを伝えていくため、充実した展示・研究活動を考えていきたいと思ひます。(市川 健夫)



八戸城跡発掘調査にて 写真中央が筆者

平成 22 年度 八戸市内発掘調査一覧

	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	主な時代
市内発掘調査事業	館平遺跡①	試掘調査	個人住宅増築	H22.4.15	7	縄文
	稲荷後 (3) 遺跡	試掘調査	農業用倉庫建築	H22.4.16	13	縄文・古代
	新井田古館遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H22.4.19	4	中世
	咽平遺跡①	試掘調査	切土造成、農業用倉庫建築	H22.4.19	32	縄文
	咽平遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H22.4.20	14.3	縄文
	根城跡下町	試掘調査	個人住宅建築	H22.4.22	35	中世
	八戸城跡 第 27 地点	試掘調査	個人住宅建築	H22.4.23	13.6	近世
	市子林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H22.4.26	23	古代
	石橋遺跡①	試掘調査	宅地造成	H22.4.27・28	140	古代
	石橋遺跡②	試掘調査	集合住宅建築	H22.4.27	20	古代
	松ヶ崎遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H22.5.11	11.75	縄文
	堀端 (1) 遺跡隣接地	試掘調査	個人住宅建築	H22.5.14	13.5	縄文・古代
	館平遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H22.5.21	1	縄文
	小沢遺跡隣接地	試掘調査	個人住宅建築	H22.6.9	8.5	縄文
	野場遺跡隣接地	試掘調査	宅地分譲	H22.6.10	25	縄文・古代
	山内遺跡 第 2 地点	試掘調査	個人住宅建築	H22.6.14	30	縄文・古代
	大茂館跡隣接地	試掘調査	道路舗装	H22.6.18	3.5	中世
	熊ノ林遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H22.6.23・24	19.5	縄文
	塩入遺跡	試掘調査	駐車場建設	H22.7.20・21	32.4	縄文・古代
	市小林遺跡②	試掘調査	宅地造成	H22.8.2・3	110	古代
	坂中遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H22.8.18	21	古代
	田面木遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H22.9.3	33.1	縄文～古代・中世
	田面木遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H22.9.29	13	縄文～古代・中世
	寺の上遺跡	試掘調査	携帯電話基地局設置	H22.9.29	12.75	縄文
	堀田遺跡隣接地	試掘調査	個人住宅建築	H22.10.1	8.5	縄文・古代
	田面木遺跡 第 35 地点	試掘調査	道路舗装工事	H22.11.4～12.14	136	縄文・古代
	田面木遺跡 第 36 地点	試掘調査	道路舗装	H22.11.12	88	縄文・古代
	市子林遺跡 第 18 地点	試掘調査	アパート建築	H22.11.25	85	縄文・古代・近世
	坂中遺跡 第 2 地点	試掘調査	個人住宅建築・宅地造成	H22.12.15～17	86	古代
受託事業	鍛冶畑遺跡	試掘調査	物置建築	H22.12.16	8	縄文・古代
	柳引遺跡	試掘調査	道路改良	H23.1.11～2.5	14	縄文・近世
	千石屋敷遺跡 第 5 地点	本調査	個人住宅建築	H22.4.5～7.8	234	縄文・中世・近世
	林ノ前遺跡	本調査	自然崩壊	H22.6.7～9.22	666	縄文・古代・近世
	石手洗遺跡 第 2 地点	本調査	個人住宅建築	H22.9.1～17	75	縄文
	一王寺 (1) 遺跡 第 14 地点	確認調査	範囲・内容確認	H22.5.17～6.7 H22.7.8～14 H22.8.27～9.10 H22.10.28～11.15	556	縄文・古代
	堀田遺跡 第 3 地点	確認調査	範囲・内容確認	H22.8.23～9.9	290	縄文
	湯ノ沢遺跡	本調査	最終処分場建設	H22.4.20～6.25	1,170	縄文
	八戸城跡 第 25 地点	本調査	アパート建築	H22.5.6～6.15	150	近世
	八戸城跡 第 26 地点	本調査	アパート建築	H22.5.6～6.15	251	縄文・中世・近世
受託事業	八幡遺跡 第 5 地点	本調査	明治小学校耐震補強工事	H22.7.22～8.9	24	縄文～近世
	重地遺跡 第 4 地点	本調査	下水道整備	H22.9.21～9.28	80	縄文
	新井田古館遺跡 第 24 地点	本調査	下水道整備	H22.10.1～10.20	201	縄文・中世・近世
	新井田古館遺跡 第 25 地点	本調査	下水道整備	H22.10.1～10.20	43	縄文・中世・近世



《調査事務局》(平成 22 年度)

八戸市教育委員会

教 育 長 松 山 隆 豊

教 育 部 長 芝 俊 光

教育次長兼

教育総務課長 工 藤 朗

是川縄文館

開館準備室長 工 藤 竹 久

同副室長兼縄文の里

整備推進 GL 竹 洞 一 則

《埋蔵文化財グループ》

埋蔵文化財 GL 宇 部 則 保

主査兼学芸員兼社会教育課

主査兼学芸員 渡 則 子

主査兼学芸員 杉 山 陽 亮

主事兼学芸員 船 場 昌 子

主事兼学芸員 横 山 寛 剛

《縄文の里整備推進グループ》

主 幹 大 野 亨

主 幹 久 保 伝

主査兼学芸員 小久保 拓 也

主 事 磯 島 理 美

主事兼学芸員 市 川 健 夫

《平成 22 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 129 集 田向冷水遺跡Ⅳ

第 130 集 湯ノ沢遺跡Ⅱ

第 131 集 八幡遺跡Ⅴ

第 132 集 新井田古館遺跡

・重地遺跡

第 133 集 八戸城跡Ⅵ

第 134 集 八戸市内遺跡 28

《お知らせ》

平成 23 年度からは川縄文館開館準備室は、八戸市縄文学習館を分館として、

八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館となり、

7 月 10 日の開館を目指して準備を進めています。

掘り day はちのへ 第 14 号

発行年月日 2011 年 6 月 日

編集・発行 八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館

〒 031 - 0023

青森県八戸市大字は川字横山 1

TEL 0178 (38) 9511

E - m a i l bunka@city.hachinohe.aomori.jp

http://www.korekawa-jomon.jp

(は川縄文館ホームページ)

印 刷 大東印刷株式会社

印刷部数：1,000 部 印刷経費：一部あたり 94.5 円

